



散布 月 日	散布時期	薬剤(水 100ℓ当り) 及び使用量	収穫前 使用 時期	使用 回数 (以内)	散布量 (ℓ)	対象病虫害 (発生病虫害)	注意事項
月 日	特別散布 発芽前 3月下旬	スプレーオイル (水88ℓ) 石灰硫黄合剤 *① 2ℓ 10ℓ	発芽前 発芽前	— —	300	腐らん病 ハダニ類 カイガラムシ類	① (注意) 石灰硫黄合剤に代えてベフラン液剤 25 の 1000 倍（休眠期、6 回以内ただし開花期以降は 3 回以内）でもよい。混用の際は、ベフラン液剤を調合した後にスプレーオイルを加用する。
月 日	特別散布 発芽10日後 4月中旬	展着剤 *①、② 10mℓ トレノックスフロアブル 200mℓ	30 日前	5 回	350	黒星病 黒点病 (うどんこ病)	① (注意) 黒星病・黒点病の発生園は散布する。 ② (注意) うどんこ病発生園は、コロナフロアブル 400倍を加用する。
月 日	第 1 回 4 月下旬～ 5 月初旬 (開花直後)	展着剤 *①、② 10mℓ オンリーワンフロアブル*③ 50mℓ サムコルフロアブル10 20mℓ	7 日前 前日	3 回 3 回	400	黒星病 黒点病 うどんこ病 ケムシ類、ハマキムシ類 キンモンホソガ	① 散布時期は、ふじの花が 1～2 輪咲いた頃とする。 ② (注意) アブラムシ類の発生が見られる場合は、ウラ DF2000 倍(14 日前、2 回)を散布する。 ③ オンリーワンフロアブルに代えて、オーシャインフロアブル 3000 倍(7 日前、5 回)でもよい。
月 日	第 2 回 5 月上中旬 (落花後) (前回より10日後)	展着剤 *① 10mℓ アスパイア水和剤 *② 200g	30 日前	3 回	500	黒星病、黒点病 赤星病、うどんこ病 (ハマキムシ類)、(ケムシ類) (キンモンホソガ)	① アスパイア水和剤に代えて、スコアMZ水和剤の 500 倍(30 日前、3 回)でもよい。 ② (注意) ケムシ類の発生が目立つ場合は、フェニックスフロアブル 4000 倍(前日、2 回)を加用する。
月 日	第 3 回 5 月中下旬 (前回より 10 日後)	展着剤 *① 10mℓ アントラコール顆粒水和剤 200g モスピラン顆粒水溶剤 25g	45 日前 前日	4 回 3 回	500	黒星病、黒点病、炭疽病 斑点落葉病、褐斑病 アブラムシ類、カイガラムシ類 リンゴワタムシ シンクイムシ類、カメムシ類 キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ	① アントラコール顆粒水和剤に代えて、フルーツセイバー2000 倍(前日、3 回)でもよい。
月 日	第 4 回 6 月上旬 (前回より15日後)	展着剤 *①、② 10mℓ アントラコール顆粒水和剤 200g スプラサイド水和剤 66g	45 日前 30 日前	4 回 2 回	600	輪紋病、炭疽病、 褐斑病、斑点落葉病 アブラムシ類 シンクイムシ類、ハマキムシ類 カイガラムシ類、カメムシ類	① (注意) これ以降は、予防散布を基本とする。連続した降雨が予想される場合は前倒して散布すること。 ② (注意) カイガラムシ類の発生が心配される場合は、アブロードフロアブル 1000 倍(30 日前、2 回)を加用する。
月 日	第 5 回 6 月中下旬 (前回より15日後)	展着剤 *① 10mℓ ジマンダイセン水和剤 200g	30 日前	3 回	600	輪紋病、炭疽病 褐斑病、斑点落葉病 (シンクイムシ類) (ハマキムシ類) (キンモンホソガ)	① 通常展着剤に代えて、固着性展着剤のアビオン E の 1000 倍を使用すると薬液付着効果が高まる。
月 日	第 6 回 7 月上旬 (前回より15日後)	展着剤 *①、② 10mℓ コロマイト乳剤 100mℓ バイスロイドEW 50mℓ ナリア WDG *③ 50g	前日 7 日前 前日	1 回 4 回 3 回	600	輪紋病、炭疽病 褐斑病、斑点落葉病 ハダニ類 シンクイムシ類 ハマキムシ類 キンモンホソガ	① (注意) 褐斑病の発生が心配される場合は、トップジンM水和剤 1500 倍(前日 6 回)を加用する。 ② ナリア WDG は、ピオーネ、サニールージュに薬害を生じる恐れがあるので飛散しないようにする。
月 日	第 7 回 7 月中下旬 (前回より15日後)	展着剤 *①、② 10mℓ ダニサラバフロアブル 100mℓ キノドーフロアブル 125mℓ オリオン水和剤 40 100g	前日 14 日 前日	2 回 4 回 2 回	600	輪紋病、炭疽病 斑点落葉病、褐斑病 ハダニ類 シンクイムシ類、ハマキムシ類 キンモンホソガ、カイガラムシ類	① 通常展着剤に代えて機能性展着剤のササラ 2000 倍を使用すると薬液の広がりがよくなり、散布後の乾きも早くなる効果がある。 ② オリオン水和剤 40 に代えて、サイアノックス水和剤 1000 倍(45 日前、3 回)もよい。ただし、収穫前規制に注意する。 ③ ダニサラバフロアブルに代えて、スターマイトフロアブル 2000 倍(前日、1 回)でもよい。
月 日	第 8 回 8 月上旬 (前回より15日後)	展着剤 *①、② 10mℓ キノドーフロアブル 125mℓ ディアナWDG *③ 10g	14 日前 前日	4 回 2 回	600	輪紋病、炭疽病、 斑点落葉病、褐斑病 シンクイムシ類、 ハマキムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ	① (注意) シンクイムシ類の発生園は、前回から散布間隔を 10 日とする。 ② 通常展着剤に代えて機能性展着剤のササラ 2000 倍を使用すると薬液の広がりがよくなり、散布後の乾きも早くなる効果がある。 ③ ディアナ WDG の使用倍率に注意する。
月 日	特別散布 8 月中旬	展着剤 *①、② 10mℓ バリアード顆粒水和剤 50g	前日	3 回	600	シンクイムシ類、 カメムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ	① (注意) シンクイムシ類の多発園は、前回より 7～10 日後に散布する。
月 日	第 9 回 8 月中下旬 (前回より15日後)	展着剤 10mℓ フリントフロアブル25 33mℓ イカヅチWDG 66g オマイト水和剤 *①、② 133g	前日 前日 3 日前	4 回 2 回 1 回	600	輪紋病、炭疽病、 斑点落葉病、褐斑病、 すす点病、すす斑病 ハダニ類 シンクイムシ類、ハマキムシ類 キンモンホソガ	① (注意) 早生種は、オマイト水和剤に代えて、マイトコーネフロアブル 1000 倍(前日、1 回)を使用する。 ② (注意) オマイト水和剤は、ナシ類に登録が無いので、飛散しないように注意する。
月 日	特別散布 9 月上中旬 (前回より15日後)	展着剤 *① 10mℓ ストライド顆粒水和剤 *② 66g ダントツ水溶剤 25g	3 日前 前日	3 回 3 回	600	炭疽病 褐斑病、斑点落葉病 すす点病、すす斑病 シンクイムシ類、カメムシ類 キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ コナカイガラムシ類、リンゴワタムシ	① 通常展着剤に代えて、固着性展着剤のアビオン E の 1000 倍を使用すると薬液付着効果が高まる。 ② (注意) ストライド顆粒水和剤は、高温時に散布すると薬害が生じる恐れがあるので注意する。
月 日	特別散布 9 月下旬 (前回より20日後)	展着剤 *① 10mℓ ベフラン液剤 25 66mℓ	前日	3 回	600	すす点病、すす斑病 褐斑病、斑点落葉病	① (注意) すず点・すす斑病の発生が心配される場合は、連続した降雨前に散布する。

◆ 安全・安心な農産物生産のために、防除・使用基準を厳守しましょう！

◆ 混用例：展着剤 ⇒ 液剤⇒ 乳剤⇒ フロアブル⇒ ドライフロアブル（DF）⇒ 顆粒水和剤（WDG）⇒ 水和剤⇒ 顆粒水溶剤⇒ 水溶剤